

シンポ・四国遍路と大学教育

①

今春設立されたばかりの四国歩き遍路大学ネットワーク主催「シンポジウム・四国遍路と大学教育」が、七月十八日(金)明治短期大学で開かれた。四国遍路を教育に取り入れている四国の各大学から実践報告、続いて昨年歩き遍路体験学習に参加した明德短大生が体験を発表した。休憩は学生たちのお接待タイム。二部に入って約七十人の参加者も加わり、質疑が交わされた。以下は各大学の報告ならびに質疑の要旨。

ネットワーク発展を

【司会・加藤優徳島文理大教授】四国遍路を教育研究に取り入れる大学が増えている。さる四月

【司会・加藤優徳島文理大教授】四国歩き遍路大学ネットワークが設立された。まだ、十分に機能し始めていないが、今後に向けて発展させたいということから本日のシンポジウムを企画した。まずゲストとしてお越しいただいた奈良大学の鎌田道隆学長からお話を伺いたい。

鎌田道隆奈良大学学

長 実験歴史学・お伊勢良からの伊勢まで、江戸時代の旅を復元してみようと思ははじめて、二十年目を迎える。現代の学生たちの知識や体感について危機感をもったことが始まり。

【大石雅章鳴門教育大教授】平成十三年十月、人の成長、それを育む地域文化の視点から「四国遍路」研究の意義を検討しようとして、有志一同で「四国遍路八十八カ所の総合的研究」プロジェクトを立ち上げた。

88カ所を総合的研究

目的は ①四国遍路八十八カ所の社会的・文化的な役割を多角的に分析してきた四国地域の社会・文化・宗教的特質および地域間の交流などを解明③本学における四国遍路を題材にした教育の在り方を研究 ④小・中・高校の教材開発の研究。

目的達成のため学際的視点からメンバーが構成され、学外の研究者、現職教員もプロジェクトに加わった。

平成十四年三月から、メンバーの専門を活かして「四国遍路」の研究をすすめる、研究会などで順次発表している。実績として山本貞美氏・南隆尚氏「四国遍路(徳島編)の調査」、山本準氏「四国八十八カ所写真し霊場」、河野通之氏「ひきこもりの若者たちと集団歩き遍路」に参加して。

また四国の大学にしかできない学術研究活動として ①重本哲也氏「脇

伊勢参り歩いて20年

【大石雅章鳴門教育大教授】平成十三年十月、人の成長、それを育む地域文化の視点から「四国遍路」研究の意義を検討しようとして、有志一同で「四国遍路八十八カ所の総合的研究」プロジェクトを立ち上げた。

目的は ①四国遍路八十八カ所の社会的・文化的な役割を多角的に分析してきた四国地域の社会・文化・宗教的特質および地域間の交流などを解明③本学における四国遍路を題材にした教育の在り方を研究 ④小・中・高校の教材開発の研究。

町大師堂・大師講の調査「後藤家文書(組屋文書)にみる四国遍路」など。

昨年三月、本プロジェクト、巡礼研究会、徳島県立博物館の主催で「四国遍路研究・シンポジウム」を開催、百名近くの参加者を得た。

阿波遍路の公開講座

【平井松午徳島大学教授】本学において「四国遍路」に関する教育カリキュラムはこれまで組まれていないが、平成十四年度に非常勤講師によって「巡礼の歴史地理学」と題する集中講義が実施された。

「四国遍路」は、以下の授業で取り上げられている。①全学共通教育「徳島を考える」の中で「四国遍路」巡ることの意



明德短大で開かれたシンポジウム